

# 博士論文審査結果報告書

2023年2月1日

論文提出者	論文審査担当者
<p>専攻領域 リハビリテーション科学領域</p> <p>専攻分野 神経・運動機能リハビリテーション分野</p> <p>氏名 見須 裕香</p>	<p>審査委員（主査） 備酒 伸彦</p> <p>審査委員（副査） 藤原 瑞穂</p> <p>審査委員（副査） 岩井 信彦</p>
<p>論文題目</p> <p><b>Life Satisfaction and Participation of Older Adults with Care Needs Who Live at Home</b> — Analysis Focused on Occupational Gap —</p> <p>在宅で生活する要支援・要介護高齢者の生活の満足度と参加 —作業ギャップに焦点を当てた分析—</p>	
<p>審査結果</p> <p>本論は、在宅で生活する要支援・要介護高齢者の生活の満足度向上に対する参加の影響について、作業ギャップに焦点を当てて明らかにしたものである。</p> <p>作業ギャップを測定するための OGQ（スウェーデン作業療法士協会：IADL・余暇活動・社会活動・仕事または仕事に関連する活動の4領域、30項目で構成）を日本語版に翻訳し、日本語版 OGQ-J としての妥当性・分かりやすさについてプレテストによる検証を行った上で、本研究の測定ツールに供した。</p> <p>394名の調査同意者の内、必要な調査項目に回答を得た209名を調査対象として、データの取得と解析を行った。その上でICFの観点から考察を加えて結論と提言を導いたもので、審査会において、この過程と手順が適正なものであることを確認した。</p> <p>本研究の結果、要支援・要介護高齢者に対して、心身機能や身体構造の改善を目指すだけでなく、物的、人的、社会的環境を整え、身体機能の低下があっても行いたい活動ができるよう支援するリハビリテーションの重要性が示唆され、もって、要支援・要介護高齢者の生活の満足度を良好に維持・向上することが示唆された。</p> <p>以上の結果は、高齢者ケアの臨床現場で感覚的に認識されていることであるものの、客観的なデータによって分析されたことは有意義な新規性を有し、今後の高齢者リハビリテーション・ケアの発展に大いに寄与するものと言える。</p> <p>よって、論文提出者は博士の学位を得る資格があると認める。</p>	
<p>審査委員（主査） 備酒 伸彦</p> 	